

## 平成 30 年度 学校評価（取組み）

本年度の重点目標			
1 集団生活を通して、自ら規律を守る品位・品格ある生徒、明るく思いやりのある生徒になる。 2 自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う。 3 系統的かつ計画的なキャリア教育を推進し、生徒自らが在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。 4 安全・清潔で落ち着いた学習環境・教育環境を整備し、生徒が安心して学習や学校行事などに取り組むことができるように努める。 5 開かれた学校づくりを進め、生徒が地域に信頼され、愛される学校づくりに努める。 6 円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した取組を推進する。			
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	PTA 活動と開かれた学校づくり 国際交流活動の推進 広報活動の充実 実践的な防災・減災教育の取組み	P T A の学校行事への参加推進 夏季オーストラリア研修の実施 ホームページの管理と外部への情報発信 シェイクアウト訓練を中心に、その場に応じた行動がとれるように実施方法を検討する。	保護者に開かれた PTA 活動の実践を継続する。 第 1 回目となる夏季オーストラリア研修を計画実施する。 外部への情報発信を積極的に行い、地域や地元中学校から信頼される学校を目指す。 生徒自らが身の安全を確保できるような態度を養う。
教務部	学習指導の充実	参観授業、研究授業の効果的な実施方法を探るとともに、開かれた学校づくりの一環として、保護者や地域、近隣中学校に対する授業公開について検討する。	「分かる授業」に加え、「考えさせる授業」を進め、主体的かつ協働的に学ぶ態度を身に付けさせられるようにする。教員相互の授業研究を充実させるために、年 2 回の公開授業週間の活用を工夫する。 他分掌と連携して校務支援システムの活用を進める。
生徒部	地域から愛される生徒の育成 交通安全指導の充実 スマホ・携帯指導の充実 いじめの早期発見と再発防止 生徒主体の学校行事の活性化 愛校心の育成 部活動活動時間の適正化	身だしなみ指導の充実 公共マナーの充実 挨拶指導の充実 交通安全指導の充実 外部講師を招き安全教室を実施する。 いじめアンケート調査の実施 生徒会役員と生徒議会の連携強化 応援委員会、スクールキャラクター「みなみん」の活躍 部活動終了時間の周知・徹底	全職員が率先垂範・連携した指導を継続する。 生活委員など生徒が主体となる活動を検討する。 家庭や地域、関係諸機関と連携した指導の実践 アンケート調査より、いじめの早期発見といじめ問題対策委員会、教育相談委員会と連携し、早期解決、再発防止を図る。 学校行事運営の際に、生徒が活躍できるように、サポートする。 部顧問会等で部活動の休養日、活動時間の設定・見直しについて話し合い、適正化に努める。
進路指導部	進路意識の高揚とキャリア教育の発展	進路行事や講演会を通じて、進路目標の実現に向けた学習を支援し、キャリア教育を発展させる。	夢を持ち、目標に向けて進路を切り開く生徒を育てるために、「高校生のための仕事学」やジョブシャドウイングなどのキャリア教育を発展させ、進路講演会、進学ガイダンス、大学模擬授業、進路希望調査等の進路行事を通して、進路に関する意識の高揚を図る。
保健厚生部	健康管理能力の育成 美化活動の一層の充実 教育相談の充実	教職員との連携強化 生徒保健委員会の充実 学校保健委員会の充実 生徒の自発的な清掃指導の充実 年間計画に基づいた定期的な美化活動の実施 学年・保健室との連携と情報の共有 外部機関との連携と有効的な活用	健康観察等を通じて生徒の健康状態を把握し、その共通理解に努める。 生徒保健委員活動の充実 保護者との連携を密にする。 清掃区域の効果的配当と美化基準の検討 L T や行事の有効活用 教育相談委員会の充実

担当	重点目標	具体的方策	留意事項
図書研修部	生徒が読書に親しむ場としての学校図書館の内容充実に努め、生徒の知性・感性・情操を高める。	蔵書内容を検討して、適切な廃棄を進め、図書館ディスプレイを工夫する。	図書委員会の活動を充実を図る。 ホームルーム担任、教科担任との連携、協力を進める。 研修業務を円滑に行う。
生活デザイン科	基礎・基本学習の確立 キャリア教育の推進	学習習慣の定着 キャリア教育による社会性育成	授業や各種検定指導を通して、基礎学力の定着を図る。 インターンシップ、外部講師活用、高大連携などの行事の充実を図り、キャリア教育の推進を図る。
教育コース	体験活動に基づく思考力・判断力・表現力の育成 教育課程の充実 広報活動の促進	大学等の外部機関との連携 生徒の主体性を育む体験活動 対話的な授業の展開 次年度カリキュラムの策定 説明会、HPの充実	校内に情報を積極的に発信し、学年団や教育コース委員との連携を深め、多様な視点から教育コースの活動充実・改善を図る。校外へは生徒の具体的な姿が見える形で教育コースの魅力を発信するよう努める。
3年学年会	進路目標の実現に向けた実力の育成と、品位と規律ある最上級生としての生活の充実	進路指導の時期を考えた適切な情報提示。定期的な個人面談の実施	学年集会、進路講話を適切に実施するとともに、学年通信の発行による定期的な情報発信に努める。個人面談を利用して、学習・生活状況を把握し、進路実現に向けて努力する力を養う。
2年学年会	高校生として自覚を持った生活と、具体的な進路目標の設定および、実現に向けての行動	学習記録表や個人面談等で生徒把握をする。進路通信や体験学習、進路講話等を充実させる。	進路指導部と連携して、キャリア教育を充実させる。進路目標の実現に向けて、家庭学習を充実させる。資格試験、模試などで具体的な目標と目標達成の手段を考えさせる。 学年団の連携を常に図り、組織的に対応する。
1年学年会	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着	学習記録及び定期的な個人面談を活用し、基本的な生活習慣の確立に努める。	学年団の連携を深め、学年全体で生徒を指導する体制をつくる。GSの時間等を利用し自己理解、他者理解や社会との関わりについて考えさせる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校を目指して、保護者・地域との連携強化の工夫をしているか。</li> <li>キャリア教育の充実ため具体的な取組をしているか。</li> <li>学習環境・教育環境の整備に努めているか。</li> <li>いじめの防止、早期発見、再発防止を組織的に行っているか。</li> <li>在校時間等の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めているか。</li> </ol>	